

	一般的名称	報告の概要
407	ジクロフェナクナトリウム	脊椎固定術後のジクロフェナクの使用により、使用量の増加と骨癒合不全・骨癒合遅延の間で相関関係が見られた。
408	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	一医療機関において、入院患者121人にインスリンを使用したところ、インスリンによる肝障害と思われた患者が13人いた。
409	ホリナートカルシウム	治療切除手術後21日から56日のステージⅢ結腸癌患者1264例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン(LV)レジメン(629例)とフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン(CPT-11)レジメン(635例)を比較するランダム化試験(CALGB89793試験)において、試験登録後6ヵ月以内の治療中の死亡率がLVレジメンでは1.0%、CPT-11レジメンでは2.8%であり、主な死因は好中球減少性敗血症と血管塞栓症であった。
410	ブデソニド	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者に吸入副腎皮質ステロイド(ICS)を投与したところ、肺炎による入院率及びその後30日以内の死亡リスクが高まることが示唆された。
411	塩酸パロキセチン水和物	妊娠第1期の塩酸パロキセチン暴露により、児の心奇形のリスクが高まることが示唆された。
412	メルカプトプリン	1996年から2004年の間にクローン病女性患者から出生した900例の子供についての全国コホート研究において、アザチオプリン/メルカプトプリン投与群において、早産と先天異常の発現リスクが高かった。
413	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	一医療機関において、再発寛解型多発性硬化症患者30例に対してインターフェロンベータ-1aを投与したところ、3例で投与直後の再発が認められ、うち2例はインターフェロンベータ1bから1aへの切替例であった。
414	ジクロフェナクナトリウム	脊椎固定術後のジクロフェナクの使用により、使用量の増加と骨癒合不全・骨癒合遅延の間で相関関係が見られた。
415	ホリナートカルシウム	治療切除手術後21日から56日のステージⅢ結腸癌患者1264例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン(LV)レジメン(629例)とフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン(CPT-11)レジメン(635例)を比較するランダム化試験(CALGB89793試験)において、試験登録後6ヵ月以内の治療中の死亡率がLVレジメンでは1.0%、CPT-11レジメンでは2.8%であり、主な死因は好中球減少性敗血症と血管塞栓症であった。
416	リファンピシン	16例のボランティアを対象としてリファンピシンとモキシフロキサシン併用時の薬物動態を検討するオープンラベル薬物動態試験において、リファンピシンの投与により、モキシフロキサシンのAUCが27%減少した。
417	リファンピシン	16例のボランティアを対象としてリファンピシンとモキシフロキサシン併用時の薬物動態を検討するオープンラベル薬物動態試験において、リファンピシンの投与により、モキシフロキサシンのAUCが27%減少した。
418	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	ケニアの売春婦において、経口避妊薬の使用によりHIV-1の感染が増加することが示唆された。
419	ガドジアミド水和物	腎機能不全患者におけるガドジアミド投与は、鉄動員が増加し、トランスフェリンが過飽和となることが示唆された。
420	ブスルファン	骨髄破壊的あるいは骨髄非破壊的移植前治療を受け、移植が行なわれた造血器疾患患者123例を対象としたレトロスペクティブ研究において、GVHD、ブスルファンの使用等が移植後の血栓性微小血管症発症のリスク因子であることが示唆された。
421	塩酸ミキサントロン	ミキサントロン療法を施行された再発寛解型多発性硬化症、進行再発型多発性硬化症、2次性進行性多発性硬化症患者509例を対象とした多施設オープンラベルRENEW試験において、7例が死亡し、1例が白血病を発生した。